

◆ たばこ作りの基礎知識(P-32・33)参照

1. 接触剤の効果的使用 …… 使用基準を遵守し最大限の効果発揮

☆心止め前のコンタクト使用 …… 特に丁寧に散布し、一次芽を焼き、その後のわき芽伸長を遅らせる

- ・散布適期を逃さない → 早め早めの散布を行う(先手先手がコツ)

☆心止め後の接触剤使用 …… 心止めすると二次芽が旺盛に急速に発生伸長する → 上位節ほど伸長速度が早い

- ・わき芽発生後の日数が経過するほど伸長速度が速まり、したがって心止め後の早い時期に散布する必要がある
- ・三次芽は、一次芽・二次芽と異なり、特に上位1~2節が急速に伸長し、形態的には基部が太い、ズングリ型が特徴

☆わき芽防除のポイントとは？

- ・わき芽が少ない栽培 → 初期生育を促進し若返りを防止し、正常な作柄を作ることが最大のポイント
- ・効果的散布のタイミング → 米粒大が最適で、一次芽・二次芽・三次芽の特徴をとらえタイミングの見極めが重要
- ・一次芽と二次芽を確実に抑制することが肝心 → 確実にを行うことが、それ以降の作業を楽にする近道
- 草丈が一升瓶の高さ(40~50cm)の頃から処理するが、一回目は薄め(40~50倍)で少量でよい。(右写真:薬害に注意)
- 薬液が地際部へ流れ落ちるような多量な散布は、根や茎を傷め、倒伏や立枯病発生の原因 → 株元までしっかり土寄せする
- 最初は手作業により、わき芽取りを実施するが、その時もない下葉の除去と、土寄せの不十分な株には手直しをする。
今年作は、風害により葉傷があり充実した下葉であるため、無理な除去は行わないこと。

毛じがあるので
薬害に注意



図-1 黄色種の発蕾期コンタクト散布方法

2. 接触剤の使用にあたって

☆「たばこ用農薬の使用基準」により、使用方法(希釈倍数・使用量)、遵守事項等を確認

使用時期	使用方法	使用回数
心止前	コンタクトのみ使用可	2回以内
心止後	コンタクト単用	4回以内
	コンタクト・イエローリボン併用	イエロー2回以内 しめコンタクト1回

☆2014年作は【地域にあった力強い標準作柄】を目指します。
樹勢の強い作柄は、わき芽の伸長も旺盛になります。
想定したうえで、適期に、効果的に使用できるよう計画してください。
☆【宮崎県品質推進委員会】決定事項
今年作より【ブルーリボン乳剤】の使用はできません。【厳禁】

※接触剤の使用にあたっては、「早め早め」「先手先手がコツ」は経験積みです。遅れることがないように心掛けてください。

※収穫時期と重なります。収穫作業を優先させるためにも、受委託共乾を積極的に活用してください。

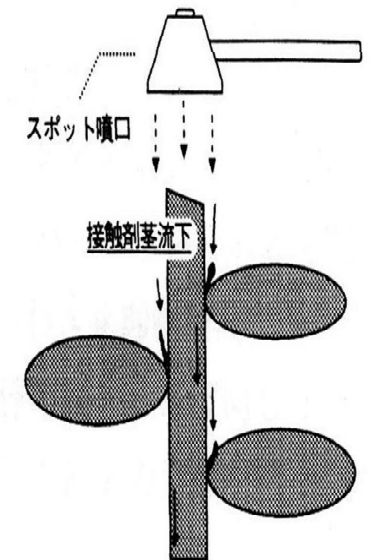


図-1 接触剤散布とわき芽への接触

3. 病虫害対策

☆疫病 …… 排水対策の徹底・効果的農薬の使用 (技術情報:4を参考に引き続き実施)

☆たばこ黄斑えそ病(PVY) …… 5月上旬までが勝負(技術情報:3を参考に引き続き実施)

・アブラムシの飛来調査によると、すでに多くの飛来が見られます。ジャガイモ隣接ほ地を中心に防除に努めて下さい。

収量・品質に重要な作業が重なる時期です。適期に、適正に、段取り良く取り組みましょう。